

【授業力向上推進プロジェクト】

事例2 家庭総合
高齢者分野

「地域社会人としての
心を育むための指導法の工夫」

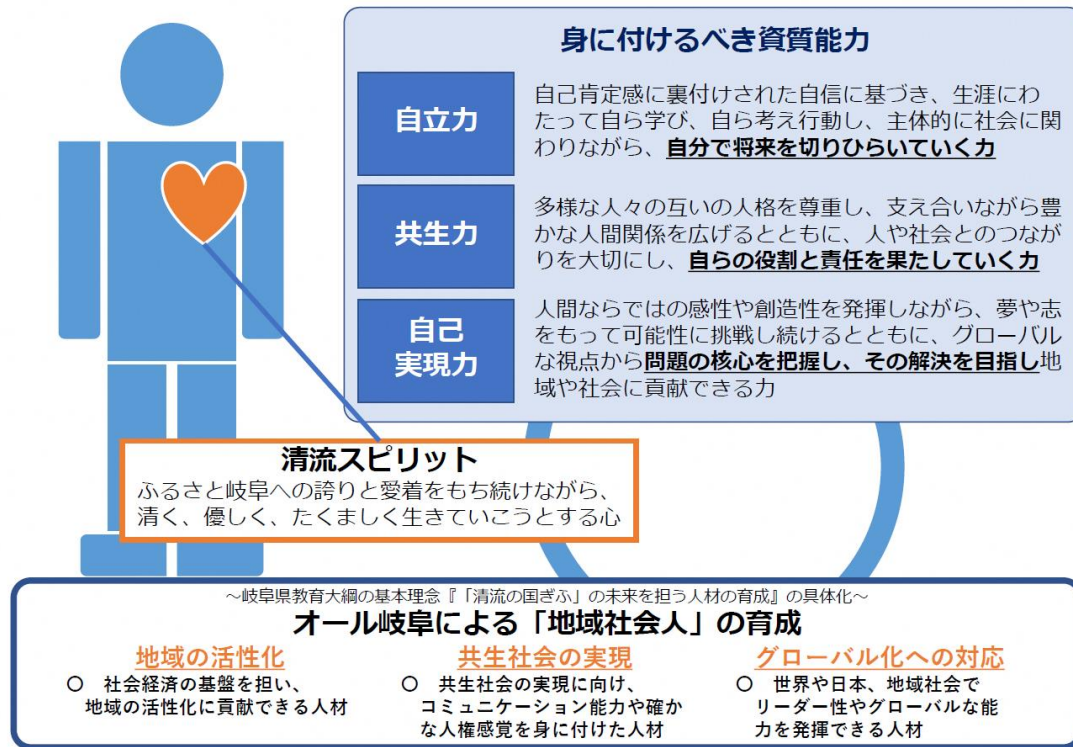
1 研究のねらい

2 研究実践

3 まとめと今後の課題

1 研究のねらい

地域社会人としての心を育むための指導法の工夫



地域や社会の一員として、主体的に行動できる力を身に付けさせる必要がある

Ⅰ 研究のねらい

- 各学校の「求める生徒像」の育成に向けて取り組む。
 - 効果的なICTの活用法について、引き続き取り組みを工夫・実践する。
-

1 研究のねらい

求める生徒像の「ふるさと、海津に貢献する明誠高生」に着目し、地域や社会の一員として高齢者に関わる課題を捉え、その課題の解決のために主体的に行動できる力を身に付けられる授業を目指す。

2 研究実践

(1) 生徒の実態把握

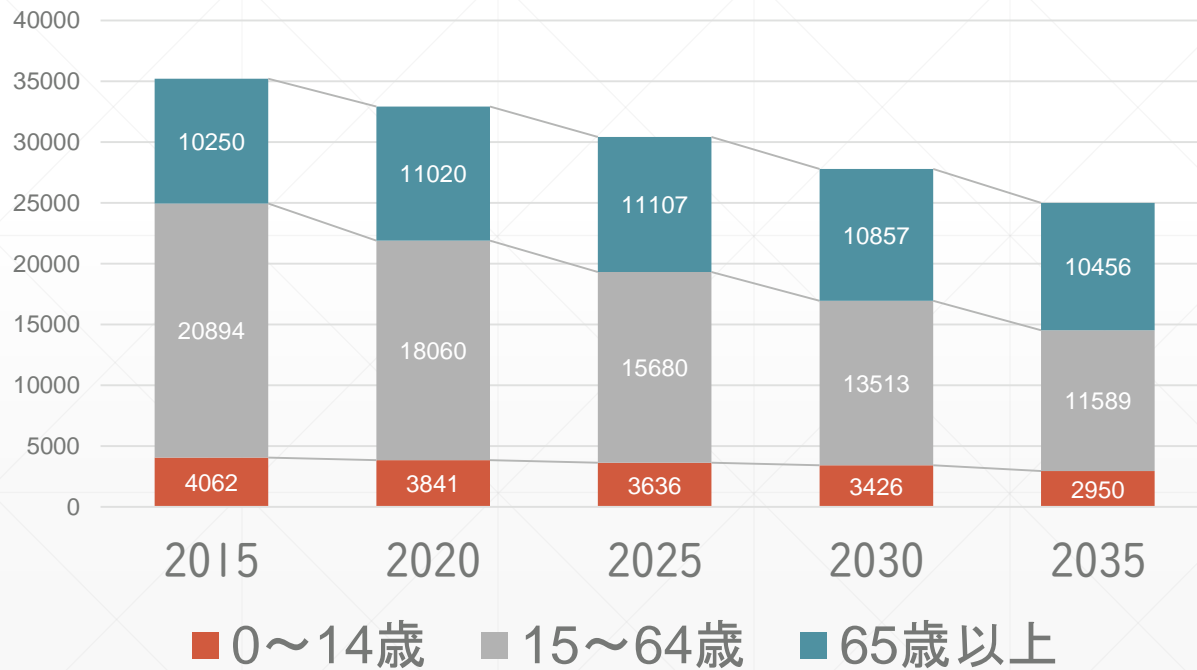
(2) 単元計画

(3) 授業実践

(1) 生徒の実態把握

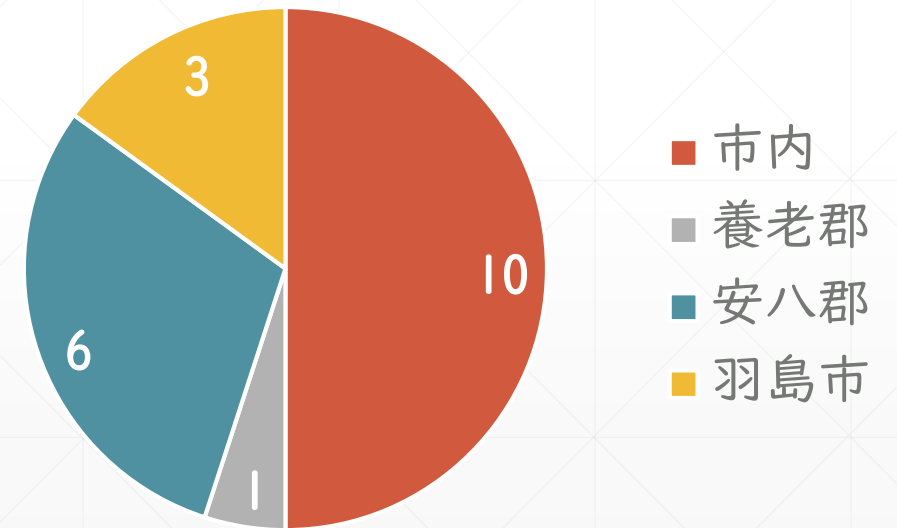
事前調査

海津市の年齢3区分人口の推移



出典：海津市人口ビジョン

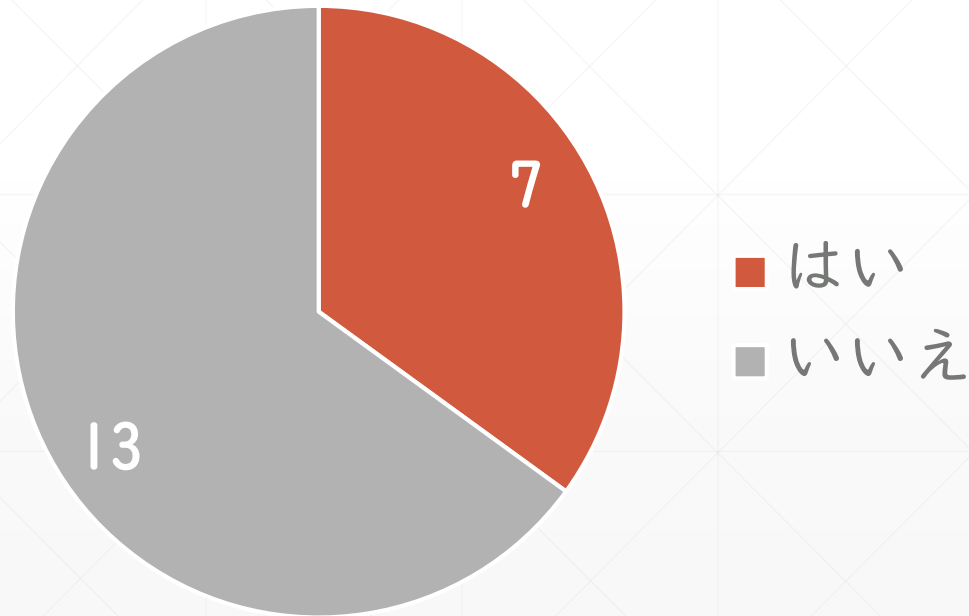
生徒自宅の所在地



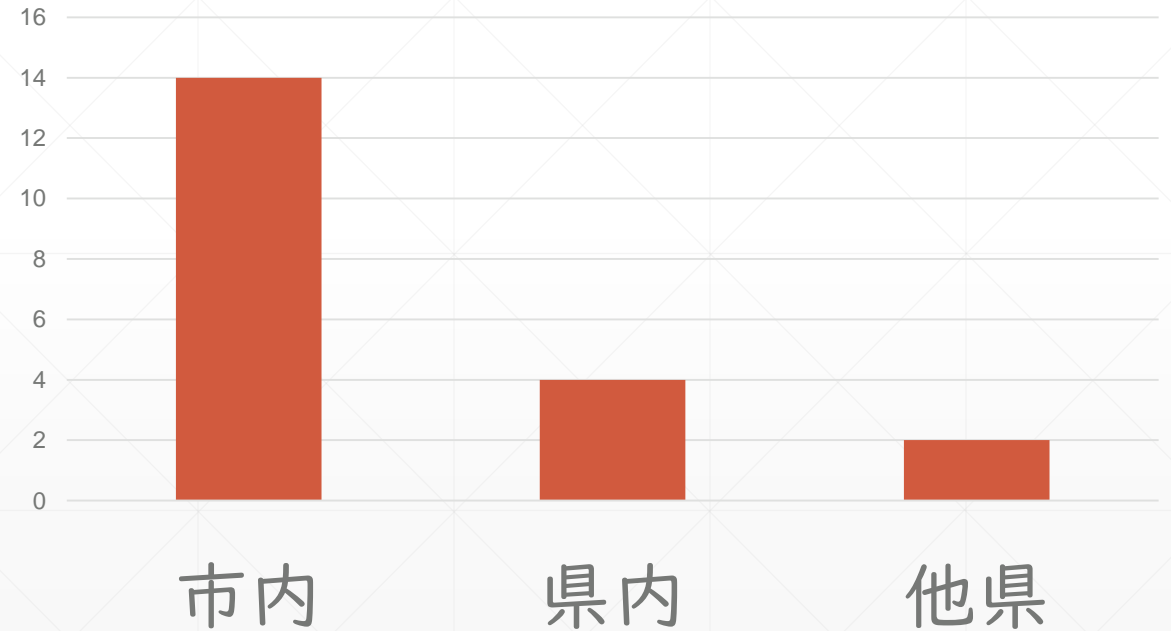
(1) 生徒の実態把握

事前アンケート

祖父母と同居していますか



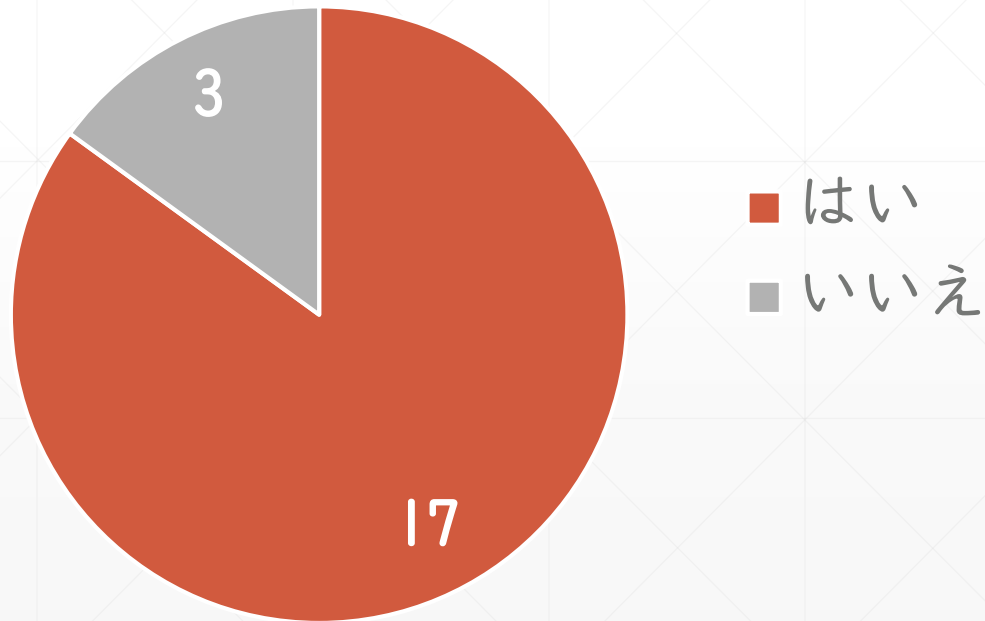
祖父母の住まい



(1) 生徒の実態把握

事前アンケート

地域の高齢者と関わりを
持ちたいですか

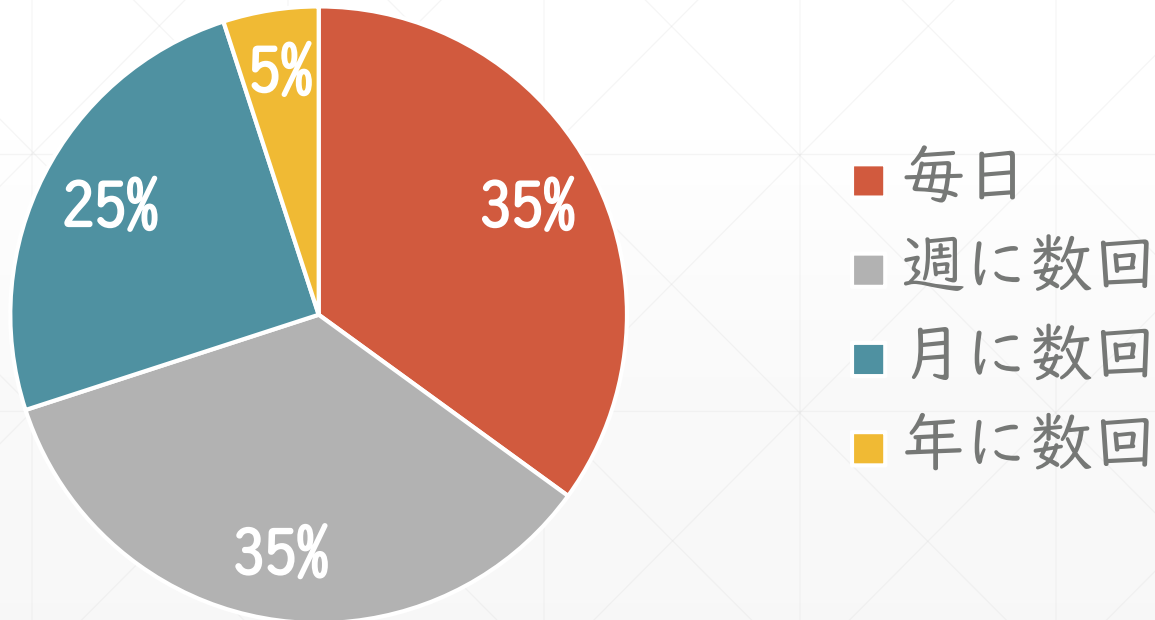


- 将来介護士になりたいから
- 地域に高齢者がたくさんいるから
- その人の人生経験を聞いてみたいから
- 何を話したらいいのかわからない

(1) 生徒の実態把握

事前アンケート

祖父母や近所の高齢者との
どの程度会話しますか



30%の生徒は高齢者との
関わりがほとんどない

どのような関わりができるか
考えられるようにしたい

(2) 単元計画

【単元全体を貫く課題】

家族や地域社会人として、高齢者と共に支えあいながら生きていくためには、どのようなにならないのだろうか。

STEP1

- ・ 超高齢社会の現状把握（1時間目）
- ・ 高齢者体験（2・3時間目）

STEP2

- ・ 高齢者の生活課題の把握（4時間目）
- ・ 生活課題の解決方法の検討（5時間目）

STEP3

- ・ 介護の意義・目的の理解（6時間目）
- ・ 介助体験・高齢者の関わり方の考察（7・8時間目）

STEP4

- ・ 高齢者を支える制度の理解と
介護の課題の解決方法の検討（9・10時間目）

(3) 授業実践

1 時間目 超高齢社会の現状把握

単元全体を貫く課題に対する
考えを記入



高齢者のイメージを書き出し、
グループ・全体で交流



超高齢社会の現状・課題の把握

年齢を重ねると起こる変化

身体・見た目の変化

しわ

心肺など体の機能の
低下

骨がもろくなる

病気になりやすくなる

筋肉がなくなる

免疫力が弱まる

運動能力の低下

ちょっと歩くだけで疲れてしまう

腰が曲がる

耳が聞こえづらくなる

行動・精神の変化

物忘れが激しくなる

気が弱くなる

精神が弱くなる

お風呂やお手洗いにいくところが困難になる。

普段できていたことができなくなる。

朝早起きして夜早く寝る

骨がもろくなる

病気になりやすくなる

物忘れが激しくなる

朝早起きして夜早く寝る

(3) 授業実践

2・3時間目 高齢者体験

実際に体験して、すごく動きづらいなとかが分かった。また、階段や
普通の所でも危険なので、高齢者の方がいたら、手助けしてほたい。



階段や普通の場所でも危険なので、高齢者の方がいたら、手助けしていきたい。

(3) 授業実践

4 時間目 高齢者の生活課題の把握

高齢者の生活課題の把握

(認知症、ヤングケアラー、

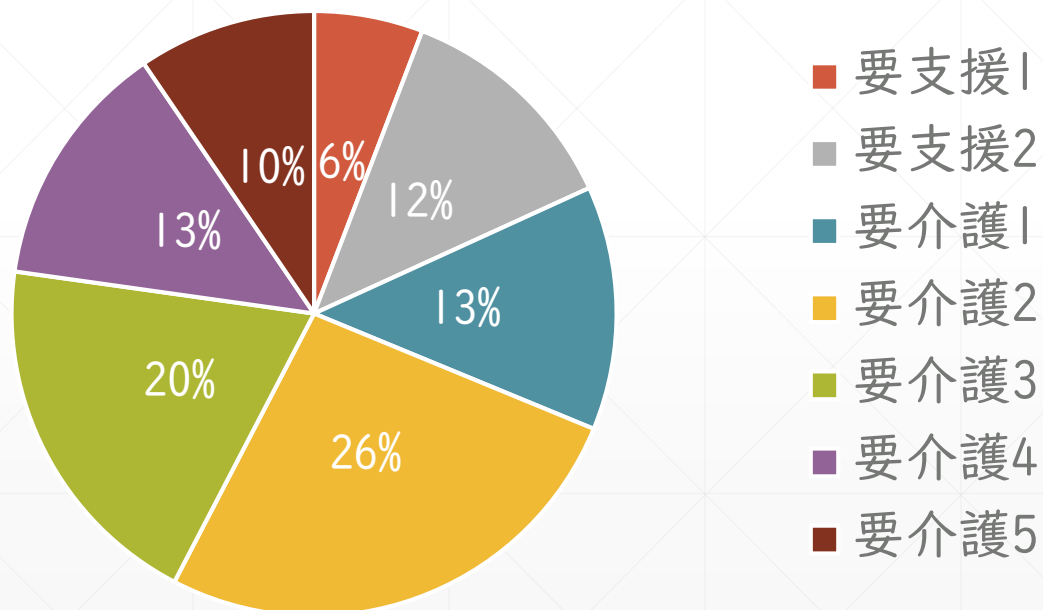
介護離職、高齢者虐待など)



海津市の介護の現状を調べる

65歳以上の高齢者のうち、16%程度が要介護
（要支援）の認定を受けている。（2020年）

海津市の要介護（要支援）の内訳



出典：介護保険事業状況報告

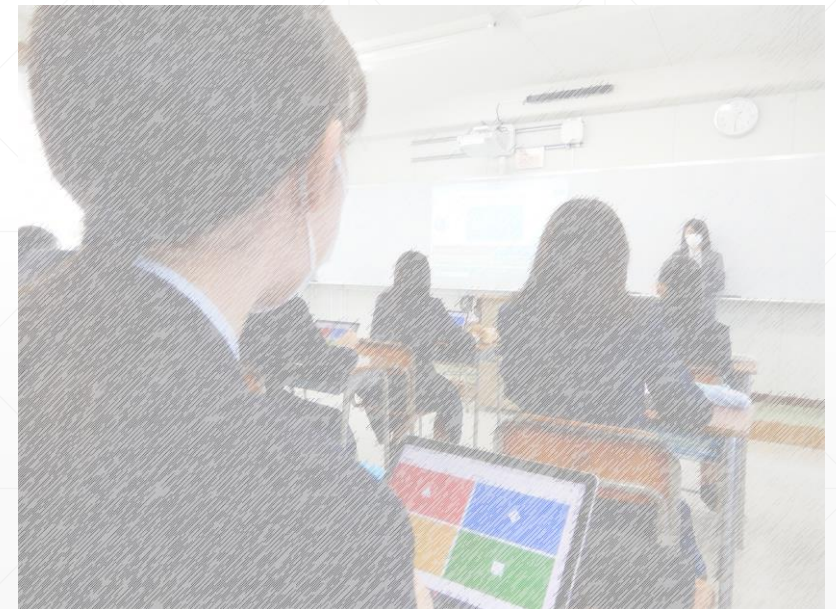
(3) 授業実践

5 時間目 生活課題の解決方法の検討（研究授業）

導入

Kahoot!を用いて前時までの
復習を行う

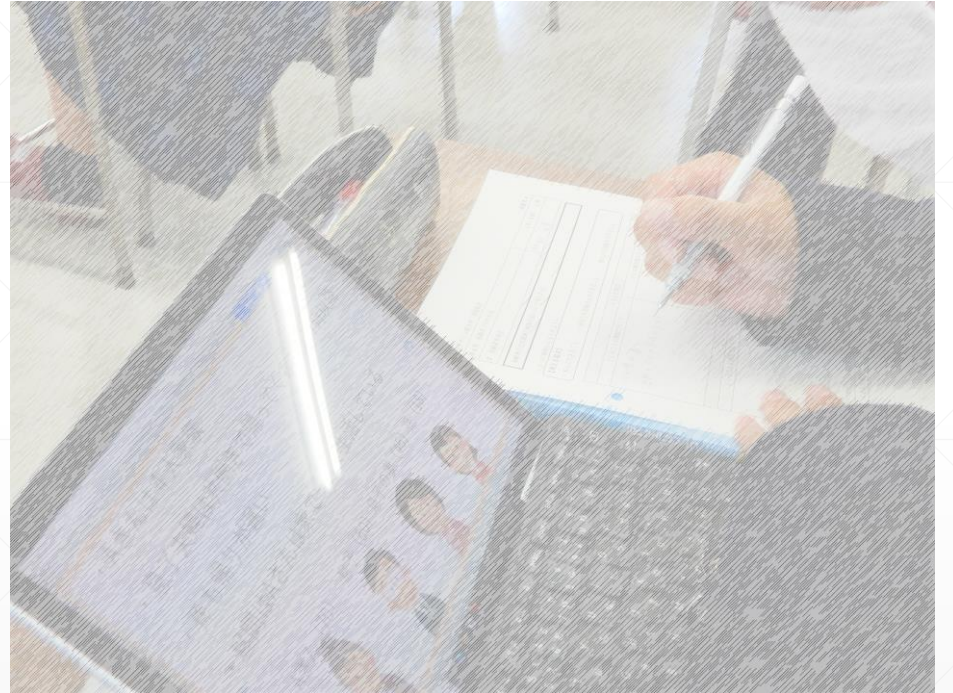
（高齢化率、認知症、高齢者の
生活について）



(3) 授業実践

展開

- 事例A・Bについて確認
(MetaMojiで繰り返し読める)
- 各自で課題を発見し、その
解決方法を考える



【事例A】

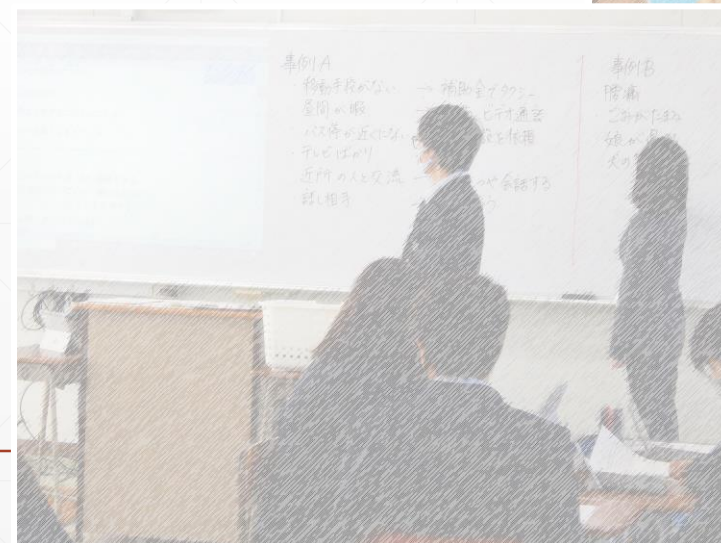
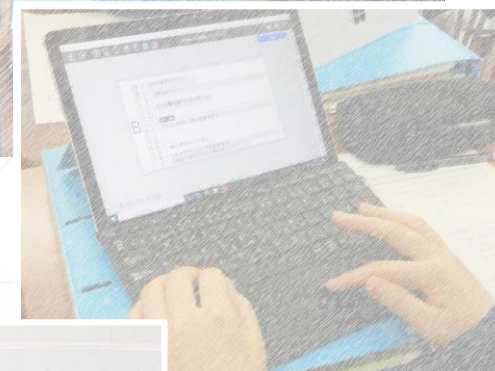
昼間独居の高齢者で、交通手段や生きがいについて悩んでいる例

【事例B】

娘が県外に住むひとり暮らしの高齢者で、腰痛がひどく外出が億劫になっている人の例

(3) 授業実践

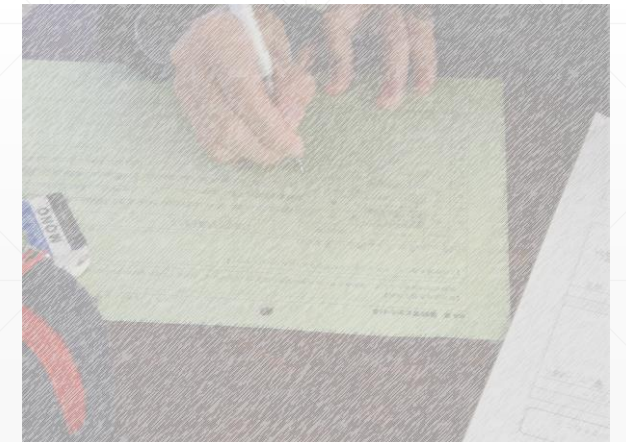
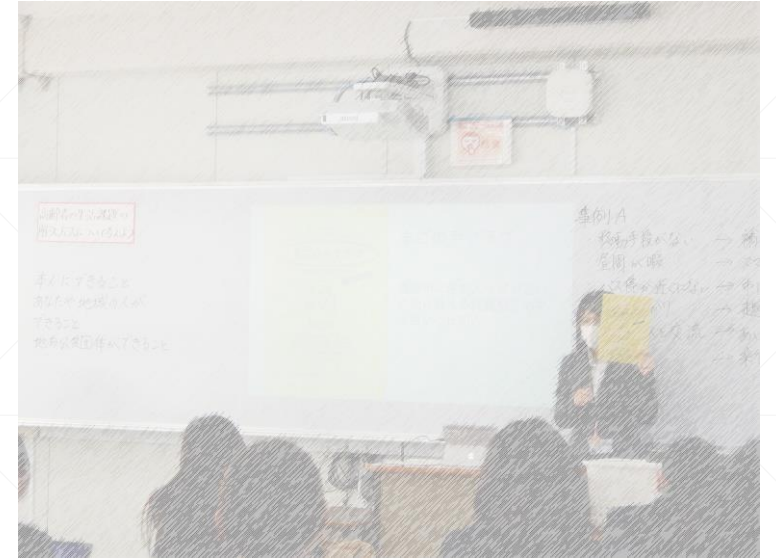
- 各自で考えた意見をグループで出し合い、MetaMojiのグループシートにまとめる
- グループシートを全体に共有し、交流



(3) 授業実践

まとめ

- ・ 海津市のボランティア団体の紹介や、他の自治体での取り組み例を紹介し、まとめる
- ・ 振り返りシートを記入する



(3) 授業実践

6時間目 介護の意義・目的の理解

高齢者理解の
手立てを考える



事例に合わせ
適切な声かけを考え、
ペアで実演する

認知症の方との接し方を考えよう。

【本人の尊厳を大事にして、できることをいかしながら、お手伝いしてもらおう】



会話例	穏やかに前向きな言葉で話そう
認知症の A さん「私もお料理するよ？」	A さん「私もお料理するよ？」
家族の B さん「え？危ないからいいわよ」	B さん「 」
A さん「何を！危ないっていうの！！」	」
B さん「火も包丁も危ないから向こうで待ってて ください」	A さん「何からしようかね？」 B さん「 」
A さん「何もできないっていうのか！」	」
B さん「料理はいいですから待っててください い！！」	A さん「これでいいかい？」 B さん「 」

(3) 授業実践

7・8時間目 介助体験・高齢者の関わり方の考察

高齢者と関わるときに、私と相手は対等な関係であるということを意識していきたい。

高齢者と関わるときに、私と相手は対等な関係であるということを意識していきたい。

(3) 授業実践

9・10時間目

高齢者を支える制度の理解と介護の課題の解決方法の検討

介護における課題を考察する

↓

単元全体を貫く課題に対する

学習後の考えを記入し、

学習前と後の記述内容を比較する

家族や地域社会人として、
高齢者と共に支えあいながら
生きていくためには、
どのようなならなければ
ならないのだろうか

3 まとめと今後の課題

(1) 地域社会人の育成に向けて

【研究授業 ワークシートの生徒の記述例】

- ・バス停が遠いので市にお願いして増やしてもらおう。

【評価B】

- ・移動手段がなく困っているのでタクシーを利用する。自治体がクーポンを発行し、費用を負担する。

【評価A】

評価A

25%

評価B

75%

評価C

0%

【単元を貫く課題】

家庭や地域社会人として、高齢者と共に支えあいながら生きていくためには、どのようなならなければならないのだろうか。

【この学習を通して、どのようなことができるようになりたいですか？】

高齢者が困っていたらすぐに助けることができるようになりたい。

高齢者が困っていたらすぐに助けることができるようになりたい。

自己評価～あなたの生活に生かせる学びができましたか？どのようなことを実践していきますか？～

高齢者や社会には様々な課題があり、解決していくためには高齢者や家族以外にも、地域の人や社会全体で高齢者の生活を支えていくことが大切だということ学びました。地域の高齢者や祖母と話したりして関わりを深めました。

高齢者や社会には様々な課題があり、解決していくためには、高齢者や家族以外にも、地域の人や社会全体で高齢者の生活を支えていくことが大切だということ学びました。

主体的に学習に取り組む態度の評価について

B
の
例

学習前の記述

高齢者の人に気遣いができる人になりたい。

記述は増え、学習内容に関しての関心は増しているが、実践しようとしていない

学習後の記述

高齢者のことについて色々学んで、高齢者はとても動きづらいことが体験して、改めて知ることができました。また、家族、身近な人、社会の人で支え合っていることも知ることができました。

主体的に学習に取り組む態度の評価について

A
の
例

学習前の記述

高齢者の手助けをより一層できるように頑張りたいです。

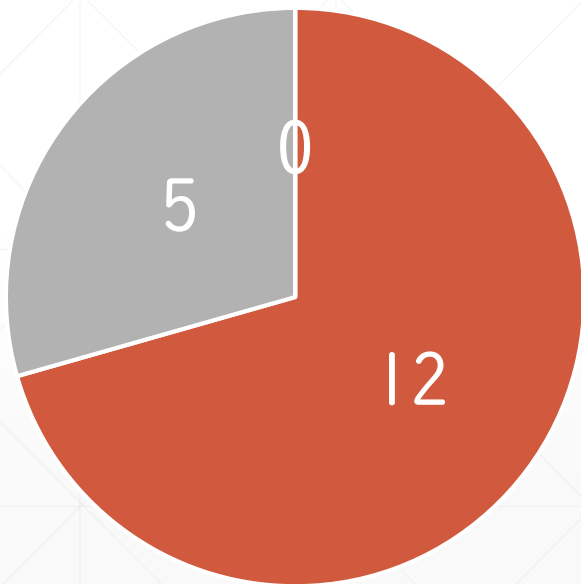
学習内容に関しての関心が増し、課題解決のための実践をしようとしている

学習後の記述

(略) …この単元を通じて、いつか訪れる未来なので、ちゃんと考えようと思いました。… (略) …大学のサークルやボランティア活動等で高齢者にメリットになる活動を行ってみたいと思いました。

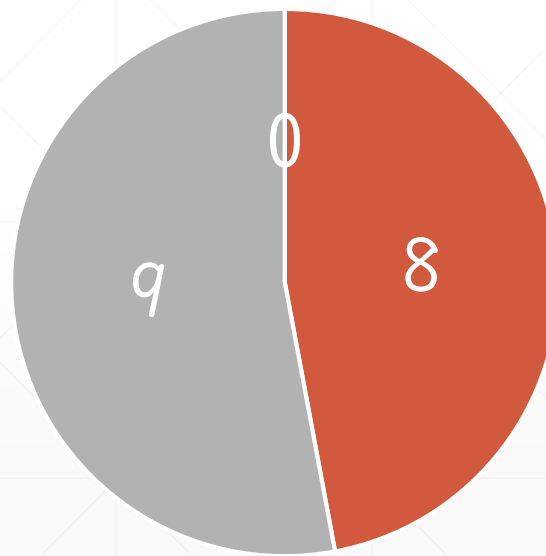
(2) ICTの活用について

ICT機器を使った授業について



- 意欲的に取り組める
- 変わらない
- 意欲的に取り組めない

授業でICT機器を使うことについて



- もっと使ってほしい
- 今のままでよい
- あまり使ってほしくない

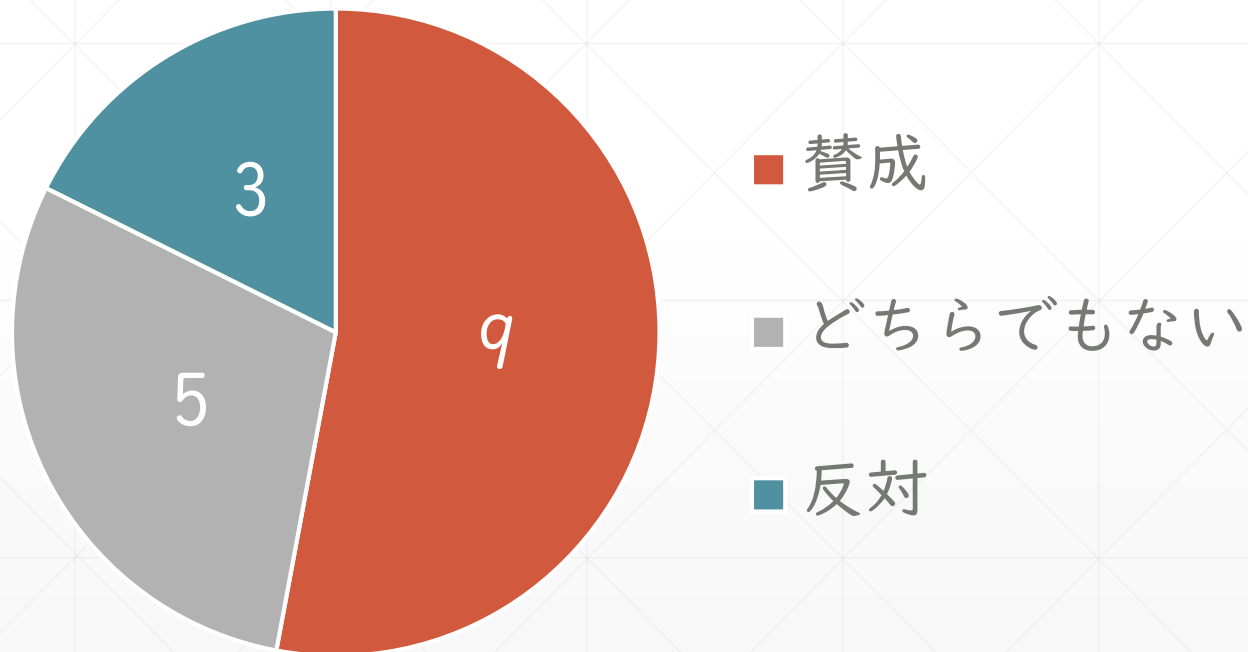
(2) ICTの活用について

- ICT機器をたくさん使うことで、より理解を深めることができると思うから
 - ICT機器の方がより深く仲間同士で学べるから
 - 意見の交流がしやすいから

 - 使う頻度がちょうどいいくらいだから
 - 書くことも必要だから
-

(2) ICTの活用について

今後紙のプリントをなくして
授業を行うとしたら



- 授業がやりやすい
- 持ち物が少なくなる
- 授業でやることはどちらも変わらない
- 自分の字で書いた方が覚えやすい
- テスト前はプリントで見返したい

(3) 研究授業について

成果

- 導入にkahoot!を用いることで、ゲーム感覚で前時までの復習を行うことができた。
- MetaMojiのグループシートを活用し、海津市の一員として何ができるか、生徒の視点から考えることができた。

(3) 研究授業について

課題

- ・ 前時の振り返りに時間を使いすぎており、各グループの意見をまとめたあと、もう一度生徒が考える時間・まとめる時間がとれていなかった。
- ・ 時間のロスを省くために最初からMetaMojiに記入させた方が良かった。
- ・ 2つの事例から課題や解決方法を考えたが、一つでもよかったのではないか。

(3) 研究授業について

- 授業内容、時間配分の見直し
 - ICT機器の利用方法の再検討
 - 生徒が、学んだ知識を実践できるように
-